

課題名 明治時代の洋風住宅の平面分析

指導教員 中西章

■ 研究の目的

明治時代には洋風の住宅がさかんに建てられるようになった。これらの洋風住宅に関しては外観や構造、意匠についての研究が多数行われている。しかし平面についての研究はあまり行われていない。そこで本研究では明治時代に建てられた洋風住宅の平面分析を行い、どのような形式があり、時代と共にどのように変化をしたのかを知ることを目的としている。

■ 研究の方法

対象とした 12 件の洋風住宅の平面図をもとに平面分析を行う。まず平面形式を廊下、ホールと各部屋との関係から分析し、またこれの他、各階の平面の違い、使用人の動線等についても検討した。

■ 研究対象

明治時代に建てられた洋風住宅で、現在国の重要文化財に指定されているもので、平面図が入手できた以下の 12 件を対象とする。

	旧リンガー邸	旧西郷従道邸	旧青木家那須別邸	旧ハンター邸	旧岩崎邸	旧ハッサム邸	旧シャープ邸	旧トーマス邸	天鏡閣	旧内田家邸	旧中笠家住宅	旧松本家住宅
竣工年	1869年 (明治2年)	1877年 (明治10年)	1888年 (明治22年)	1889年 (明治22年)	1896年 (明治29年)	1902年 (明治35年)	1903年 (明治36年)	1904年 (明治37年)	1908年 (明治41年)	1910年 (明治43年)	1911年 (明治44年)	1911年 (明治44年)
設計者		レスカス	松ヶ崎萬長		J.コンドル	A.N.ハンセル	A.N.ハンセル	デ・ラランデ		J.M.ガーディナ	鈴木禎次	辰野金吾
主人	F.A.リンガー	西郷従道	青木周蔵	E.H.ハンター	岩崎久彌	K.ハッサム	H.シャープ	G.トーマス	有栖川威仁親王	内田定楳	中笠半六	松本健次郎
延床面積				546.271㎡		397.58㎡	383.34㎡	891.03㎡	927㎡		321.925㎡	
建築面積	350.8㎡		318.9㎡	269.8㎡	531.5㎡			217.80㎡	492㎡		242.45㎡	624.9㎡
所在地	長崎県 長崎市	東京都 目黒区	栃木県 那須塩原市	兵庫県 神戸市	東京都 台東区	兵庫県 神戸市	兵庫県 神戸市	兵庫県 神戸市	福島県 猪苗代町	神奈川県 横浜市	愛知県 半田市	福岡県 北九州市

■ 平面形式 (右上図:旧トーマス邸、右下図:旧リンガー邸)

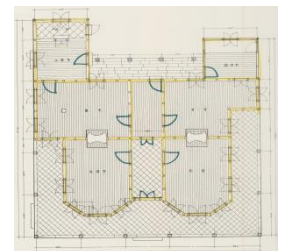
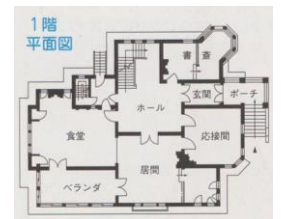
分析を行った結果以下の 4 つの形式に分類できた。

- I. ホール型 ; 広間(ホール)を中心に各部屋へ連絡
- II. 片廊下型 ; 東西に廊下を通し各部屋へ連絡
- III. 中廊下型 ; 南を入り口とし建物の
南北の廊下から各部屋へ連絡
- IV. 廊下と広間の両方が存在するもの

(IV-1:廊下から広間に出て各部屋に連絡するもの

IV-2:広間から廊下に出て各部屋に連絡するもの

以上の 5 つに分けられる。また分析をした結果から IV の形のもの
が他の 3 つに比べて建築面積が広く、規模が大きいものと考えられる。このことから以下の
ことを考察した。



- IV → 当時建てられていた正規の洋風住宅に最も近い形と考えられる
 I, II → IVの形の一部が簡略化されたもの
 III → I、II、IVとは全く違う系統のもので、東南アジアの植民地のバンガロー型に由来するものであると考えられる

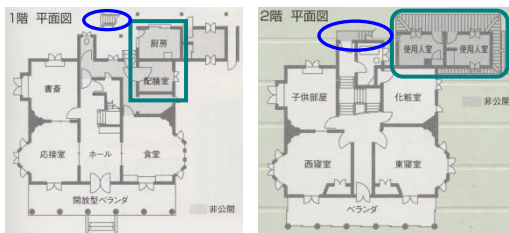
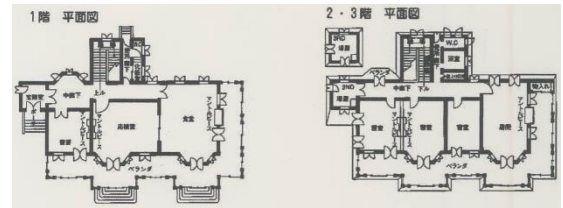
すなわち、当時の洋風住宅の正規のものに由来するもの(IV)とその簡略形(I, II)と、それとは別の系統(III)の型に分けられる。

■ その他の特徴

【基本的な平面】 リンガー邸だけが平屋建てであり、その他の住宅は全て2階建て以上となっている。また2階建てとなっている住宅では

全て総二階となっており、1、2階との平面もほぼ同じになっている。このような上下階をほぼ同じ平面とすることも洋風住宅の特徴となっている。(例:旧ハンター邸)

【使用人の動線】 今回対象とした洋風住宅のうち9件で使用人の部屋が確認された。使用人専用の部屋や動線が家族とは別に確保されている。これも洋風住宅の一つの特徴と考えられる。(例:旧シャープ邸)



- ・ 平面図 2階に書かれている使用人室と1階の厨房、配膳室がほぼ同じ位置にある
- ・ 家の玄関から見て奥側には裏階段のようなものがついている

【畳の使用】 明治後期になると日本人が住んでいた家に畳の部屋が少しずつ設けられるようになってくる。洋風住宅が日本に採り入れられて、日本風に消化された特徴の一つと見られる。(例:天鏡閣)



■ 結論

平面分析を行うことで当時の洋風住宅が5つの型に分類できることが分かった。それぞれ形式は大きく正規の洋風住宅で由来するものとその簡略形と東南アジアの植民地におけるバンガロー型に由来するものの系列があることがあきらかとなった。また上下階でほぼ同じ平面になり、家族とは別に動線が確保されている。日本人が洋風住宅に住むようになると畳の部屋が出てくるようになり、日本人が住みやすい環境が整ってくるようになっていった。



■ 参考文献

- ・ 太田 博太郎 『住宅近代史 一住宅と家具一』 雄山閣出版株式会社 昭和44年
ほか各住宅の修理報告書、パンフレットなど